

琉球文化ルネサンスの課題整理(詳細版)

1. 琉球文化の本質的価値

琉球文化は、亜熱帯島嶼の精神的・風土的要素をもとに、歴史的経緯や海外との関係性により形成され、多様性かつ独自性の高いものである。琉球文化の性格は、地理や歴史的な特徴から以下の4つに大きく整理できる。

(1)琉球文化の性格

1)広い島嶼圏にある個性豊かな地域性

本県は、温暖・多湿な亜熱帯気候のなか、広範囲に島が散在する島嶼県であり、島ごとに異なった地史を持っている。それは文化にも影響しており、ことば（しまくとぅば）や食文化、工芸品の原料や生産環境など、その地域ならではの風土を背景に発展した文化が県内各地に存在している。沖縄本島及び周辺離島と、宮古諸島、八重山諸島においては、それぞれ独自の生活様式や文化圏を形成してきた。

委員意見

- 琉球文化の多様性は、自然や、各島々が持つ独自の文化に表れている。

2)自然への畏敬の念や祈りの精神性

琉球文化は人々の生活や信仰といった日々の営みと密接に関わりあいながら、育まれてきた。雄大な海や緑を目前にした人々は、自然への畏敬の念から生み出した世界観や精神性を基礎とした営みを形成し、それらが継承され、信仰や祭祀、ひいては民俗芸能や村落構造などの独自の地域文化を形成してきた。自然への畏敬の念や祈りといった沖縄の精神的風土を基層とすることも琉球文化の性格のひとつである。

委員意見

- 琉球文化の本質的価値とは、自然への畏怖や祈りが核である。
- 自然への畏敬の念があり、神々への祈りが根底にあるからこそ、祭祀や伝統行事などの根源的なこと、とても大事にすべき核である。

3)琉球王国の体制下で洗練された芸術性

工芸、音楽、芸能、料理等については、琉球王国の体制下において、王族や上流階層の生活様式に見合うものとして、また外交上のもてなしの場や献上品として、より洗練された芸術性の高いものへと発達した。これらは庶民階級や地域の文化にも波及し、融合することで、現在の伝統文化の骨格となっている。

委員意見

- 琉球王朝で生まれた文化や物が、島々に相互に影響を与え、新しい外の文化も取り入れることで違ったものが生まれた。
- 王朝性と島々の文化は関係があり、どちらも大事。この構造を多くの人に認知してもらい、次の世代に何を伝え、新しい文化を生んでいくのが重要。

4) 外来文化を取り込み発展させた国際性

琉球文化は、琉球王国として世界を舞台に交易し、様々な文化を取り入れながら、国際性豊かな文化芸術を生み出してきた。琉球王国から沖縄県へ、さらに、戦後のアメリカ統治時代から現在に至る様々な世替わりの歴史においても、外来文化を受容し、新たな文化を育んできた。「チャンプルー文化」と呼ばれるように、長い歴史の過程で様々な交流を通じて積み上げられてきた国際性豊かな性格は、琉球文化の魅力のひとつである。

委員意見

- 琉球文化そのものが国際的なものである。
- 琉球文化は、南西諸島の人々が外との交流により新しい文化をつくり出している。
- 沖縄の芸能は、どの国でも共通する普遍的価値を内包している。
- 国際的な取組をするうえでは、相手の国の事情に合わせて展開していく必要がある。

(2) 琉球文化の本質的価値

琉球文化の性格を踏まえ、「琉球文化の本質的価値」を以下のとおり整理する。

なお、琉球文化ルネサンスを議論する上では、「本質的価値」の部分を守りつつ、時代の変化に合った文化の価値を創造していく必要がある。

琉球文化の本質的価値(案)

自然に対する畏怖や祈りに基づく祭祀・信仰、伝統行事や芸能等といった地域の文化は、琉球文化の本質的価値を構成する重要な要素として、島嶼圏の広がりとともに、個性豊かな地域性を持ち、今日に伝えられている。

また、長い歴史の中で、海外から多様な文化を受容し自らの文化としてきた沖縄の人々の力強さや包容力そのものにおいても、価値あるものである。

委員意見

- 琉球文化の本質的価値とは、自然への畏怖や祈りが核である。【再掲】
- 多様な文化を受け入れ、自分たちのものにしていく力強さについても価値である。
- 伝統文化は時代によって変化するが、守るべきもの、忘れてはならないものをどうしていくか議論すべき。
- 県内と県外で、琉球文化の本質への理解は違う。一方で、文化の担い手の立場・状況によって、価値のとらえ方が違ってくることにも理解が必要。

- 別の文化を取り入れる「チャンプルー文化」にも多様性が表れており、それが沖縄の価値に繋がっている。
- 琉球文化が本来持っていた多様性を、いかにして保持していくのが課題。
- 個性(違い)を尊重しつつ、これらを総合力としてどう力に変えていくかという議論が必要。
- 普遍的な部分と時代によって変えていくべき部分のバランスを取りながら継承することが必要。
- 先人たちがどのような想いをもってこれらの文化を生み出したかという部分も継承していくことが必要。

2. 琉球文化ルネサンスのビジョン(将来像)

「琉球文化ルネサンスのイメージ」及び「琉球文化ルネサンスのビジョン(将来像)」は以下のとおりである。

【琉球文化ルネサンスとは？】

県民が歴史・文化の理解を深め、それを大切にしつつ、日々の生活の中で関わりながら、新しい文化の価値や生活スタイルを創造する、その大きな活動のこと

【琉球文化ルネサンスのビジョン(将来像)(案)】

- 県民一人ひとりが地域の歴史・文化への理解を深め、自信と誇りを持つ。
- 日々の生活の中で琉球文化に触れることで、その価値を再認識するとともに、その魅力を県内外に広めていく。
- 琉球文化ルネサンスをとらえて、琉球文化の新たな価値の創出や産業振興に結びつける。

3. 琉球文化ルネサンスの実現に向けた課題

(1) 琉球文化を一体的にとらえた戦略的取組の必要性

本県は、沖縄本島をはじめ、本島周辺の離島、宮古圏域、八重山圏域といった大小様々な島々において、それぞれが独自の生活様式を育み、文化を継承してきた経緯がある。また、琉球文化には、しまくとぅば、芸能、工芸、空手、食文化、年中行事などの、多様な分野・テーマがあり、これまで個別の取組を実践してきた。しかし一方で、琉球文化の価値や、琉球・沖縄の歴史的背景の側面から、どのように文化が形成され、それぞれの関係性を築き上げてきたのかといった、文化の全体像をとらえた視点からの取組が不足しているように考えられる。

琉球文化ルネサンスの実現に向けては、個別の取組だけでなく、琉球文化を一体的にとらえ、総合的に進めるという視点(方向性)を持ち、あらゆる関係者(県、市町村、企業、文化活動を行う団体、個人等)や各分野における既存の取組が連携しながら、戦略的に取組を進める必要がある。

委員意見

- 個性(違い)を尊重しつつ、これらを総合力としてどう力に変えていくかという議論が必要。【再掲】
- 琉球文化を「歴史の中で理解していく」という視点で戦略的に文化政策を進めることが重要。
- 文化の総合的な情報発信ができるサイトを構築する必要がある。

(2)持続可能な仕組みづくり

文化活動や文化施策を継続するためには、現在の個別の取組を踏まえ、文化全般を一体的かつ継続的に支援し、推進するような仕組みづくりが必要である。

また、沖縄の文化情報を総合的に収集し拡散できる情報発信プラットフォームの構築や、文化に関わる人材（実演家や職人、マネジメントの人材等）が継続的に活躍していくための仕組みも必要となる。例えば、工芸の世界では、作り手とマーケティング関係者との連携、芸能の場合は、実演家とアートマネジメント関係者との連携等が想定される。そのためには文化の担い手育成にのみならず、文化活動を支援する人材・組織の育成や協働に向けた仕組みづくりも必要となる。

なお、こうした取組については、行政だけでなく民間企業との連携により、さらなる普及・啓発や専門性を持った人材の活用につながることを期待される。また、県内には文化振興に貢献している民間企業や団体も多いことから、今後は協働や支援の共感を得られるような視点での仕組みづくりも検討していく必要がある。

委員意見

- 沖縄の文化情報の総合的な情報を集約し拡散するプラットフォームの構築が必要。
- 関係機関や民間企業との連携による情報発信や専門人材の活用
- 文化検定や研修等のメリット醸成による人材育成の仕組みづくり
- 歴史や文化に関わる人材(実演家・職人など)が生活していけるような仕組みづくり
- 文化活動に協力する団体等への共感を広げるような取組の必要性

(3)文化的価値の普及・啓発

琉球文化の普及・啓発については、県民自らの体験活動や日常生活での関わりのなかで、琉球文化の価値を県民一人ひとりがどのように認識していくかが重要である。

そのためには、文化に関する体験や継承活動を通じて、各文化が持つ独自の魅力を伝えるとともに、その文化が形成された歴史的背景や本質的価値を含めた普及・啓発が必要である。さらに、文化の担い手や指導者においては、伝統文化への理解を深めていくこと、県民に広めるため教育現場との連携、専門性をもった人材（担い手）の育成・活用のためのカリキュラム（体制）を築く必要がある。

また、文化とは、時代や立場（地域・団体）、人と文化との関わり方によって、その形や、文化に対する認識が変容していくものである。そのため、多くの人々と琉球文化の価値を議

論し、確認するような機会を継続的に設けることも、普及・啓発において必要である。

委員意見

- 琉球文化に対する海外や観光的な要望にどこまで応えるか。それをどのように普及・啓発に結び付けていくのが課題。
- 教育現場と連携し、沖縄の歴史・文化を普及する事業を興す必要がある。専門人材やカリキュラム、ツールなどの体制を築く必要がある。
- 琉球文化について、総合的・横断的な情報発信が必要。
- 沖縄の文化情報の総合的な情報を集約し拡散するプラットフォームの構築が必要【再掲】
- 宮古・八重山地域に大学のような教育機関があるとよい。
- 琉球文化へのニーズを作るには、県内外での普及・啓発が必要。発信の仕方を工夫し、本質を崩さずにどう伝えるかを考える必要がある。

(4)新たな価値(魅力)の創出

琉球文化における新たな価値（魅力）の創出については、芸能分野における創作組踊や創作エイサー等の展開、工芸分野における職人とビジネス分野との連携など、すでに取組が行われているものがある。

文化活動の担い手（実演家、職人など）に対し、安定的・持続的な活動への支援が必要とされているなか、伝統的な技術を継承しながら、時代のニーズに沿った新たな作品を生み出すことは、文化芸術的な価値の評価だけでなく、文化の産業活動にも波及する可能性が期待される。さらに、近年著しく発展を遂げているデジタル技術等との連携についても、文化活動の魅力創出の可能性も期待されることから、今後 20、30 年後の世界の状況を見据えながら、文化の発信や新たな技術を活用した取組についても検討も必要である。

委員意見

- 他分野との連携による新たな価値の創出の必要性
- 新たな技術(VR・AR 等)を活用した琉球文化の新たな価値の創出
- 20 年、30 年先を見据えた上で、沖縄の歴史・文化をどのようにして他産業に活かすか検討が必要